

駒井ハルテック技報第10巻発行にあたり

「駒井ハルテック創立10周年記念号」

代表取締役社長

田中 進



当社は2020年10月1日創立10周年を迎えることができました。この節目を迎えることができましたのは、ひとえに多くのお客様、お取引企業様、協力業者様、地域の皆様そして当社グループ社員の皆様に支えられてのことと、改めて深く感謝と御礼を申し上げます。

1883年(明治16年)創業の旧駒井鉄工、1921年(大正10年)創業のハルテックが合併して誕生した会社であり、両社の諸先輩が長い年月をかけて築き上げてきた土台に、新たな強靱な土台を作り会社の成長・発展を目指して、社員一丸となって事業活動を展開してきました。また、長年培ってきた技術の継承、統合、発展に精力的に取り組んできました。特に、次世代基幹技術への取り組みとして、部門ごとに進めてきた技術開発に横断的な開発を加え、社会の様々な変化やニーズに即した戦略的技術開発に努めています。本誌の発行はこれまでの成果を定期的に確認し、技術を次世代につないでいくものであり、今回が節目の第10巻を発行するに至りました。

振り返りますと「技報」創刊の2010年はリーマンショックで長引く経済への影響や2011年の東日本大震災など、事業環境を大きく揺さぶる出来事が続き大変大きな課題に直面しました。その後も環境は目まぐるしく変化しましたが、各事業それぞれが対策を講じ、当社の強みを活かした事業活動を展開してきました。

橋梁事業では、横浜環状横浜北線トラス橋・生麦ランプや高谷ジャンクションなど難易度の高い製作・施工が求められる多くの工事に参加し、社会インフラを支える使命を果たすとともに技術力の向上と技術の伝承に努めてきました。

鉄骨事業では、東京スカイツリーや虎ノ門ヒルズでの鉄骨に関する技術が高く評価され、一般社会人や若手技術者・技能者に対するファブリケーター業界の認知度向上につながり、鉄骨全般に関心が高まる中、数多くの超高層建築案件に対応することができました。

環境事業では、ロシアカムチャッカ州や同サハ州、ブータン、フィリピンロンブロン島など寒冷地や台風仕様、離島や山岳地域などに適した風車として、そして国内でも地域密着型風車として三浦宮川公園風車発電事業などに参加し地域の生活に貢献しています。また、各地の風車は夜間ライトアップなどでのアトラクション施設や地域のランドマーク、観光名所の役割も果たしています。さらに環境事業の海外実績やネットワークを生かし、西部バングラ橋梁やミャンマーバゴ橋などの受注につなげ、会社全体の事業の好循環を生むことができました。

節目となる2020年度は、一昨年度後半からの景気の下降傾向や需要の端境期に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、これまででない厳しい事業環境となっています。金融危機に端を発したリーマンショックとは構造が異なり、経済活動や事業活動を自粛、制限するなど大きな制約が発生し、心理的な面も含めその影響は計り知れないものがあります。

このような厳しい環境ではありますが、いかなる時でも社会インフラを支える使命を果たすために当社グループの役割として果たすべき課題を工夫しながら、今後も「高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する」を経営理念として事業活動を精力的に展開してまいります。常に最先端の技術の追求や技術力の向上に努め、当社グループの未来を支える人材育成に注力し、新たな時代の持続的な成長に取り組むことで、社会の発展に貢献してまいります。

なお、本技報で紹介しきれない技術も多々ありますが、これまでの当社の10年の歴史と技術が詰まった内容となっています。当社の事業と保有技術を少しでもご理解いただけましたら幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、第10号発行の挨拶とさせていただきます。